

# ひろば

Vol.140

HIROBA

発行日：2020.8.1 発行人：田沼 武能

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 TEL & FAX 03-5371-2732 (事務局)  
<http://www.kougei-dousoukai.jp> [dousoukai@kougei-dousoukai.jp](mailto:dousoukai@kougei-dousoukai.jp) (受信専用)



吉野弘章学長独占インタビュー  
卒業制作展  
卒業のことば  
フォックス・タルボット賞  
田沼武能会長文化勲章受章を祝う会  
学位授与式  
理事会報告  
ひろばのページ



# 吉野弘章学長 独占インタビュー

## 東京工芸大学のスピリッツ「アートとテクノロジーの融合」は昔も今も変わらずに……

### 2020年4月、同窓生として初の学長に

——まずはじめに、簡単に経歴を教えてください。

吉野 もともと写真が好きだった私は、1985年に本学の短期大学部写真技術科を卒業しています。卒業後は写真専門のギャラリーで写真展の企画プロデュースなどの仕事をしていましたが、自分が関わっていたアートとしての写真のマーケットについて研究をしたいと思い、2000年に本学の大学院に入学しました。その後ご縁があって2004年から京都造形芸術大学(現・京都芸術大学)の情報デザイン学科で大学教員となりました。そしてまたご縁があって、2009年に本学芸術学部の写真学科に着任しました。

——母校に戻ってきたわけですね。

吉野 そうなんです。もともと、何かのかたちで母校には恩返しができたらいいなと思っていましたが、今回、学長になって、最も恩返しできる立場になったと言えるのかもしれないですね。これから精一杯、本学の発展のために力を尽くしていきたいと思っています。

——ご自身が思う学長としての使命は？

吉野 本学は2023年に100周年を迎えます。私の任期も2023年の3月までですから、100周年に向けて準備するというのが、同窓生初の学長としての使命だと思っています。100年の歴史がある大学というのはそうそうありませんので、その歴史と伝統をもう一度見つめ直し、もっと社会に伝えていくことと、未来に向けて発展させていくことが私の仕事だと思っています。その意味では、大きな区切りの時期に学長になったのは、何かの巡り合わせかもしれません。歴史と伝統に裏付けられた本学のブランド力の向上のために、この3年間は頑張りたいと思っています。

——同窓生初の学長になるわけですね？

吉野 この100年の歴史は諸先輩方が築き上げて

くれたものです。決して規模の大きな大学ではないのですが、昨年度には同窓会長の田沼武能先生が、写真界から初めての文化勲章を受章され、その田沼先生も含めて3名もの文化功労者を輩出しており、本学には永年にわたって文化や産業の発展に貢献してきた誇るべき伝統があります。そのことを、同窓生みんなが自信を持って語るができるようにしていければと考えています。

——現在の同窓生に対してメッセージをお願いします。

吉野 1994年に芸術学部ができた時には、写真・映像・デザインの3学科しかなかったのですが、現在では、インタラクティブメディア・アニメーション・ゲーム・マンガを加えて7学科に増えました。大学は大きく様変わりしたように見えるかもしれませんが、もともと本学は、写真という、テクノロジーとアートを融合させた最先端のメディアであり、人々の生活に役立ち、人々に親しまれる分野を教えることからスタートした大学ですので、その姿勢は今もまったく変わっておらず、ずっとぶれていない大学だということが本学の強みだと思います。

話は少し変わりますが、いまの少子化の時代にあって、本学は8年連続で志願者が増加しています。それだけ魅力のある大学になったということは、同窓生が積み重ねてきたことの結果だと思います。学長として、その積み重ねを継承しながら、未来に向けて本学をさらに進化させていきたいと思っていますので、どうぞこれからよろしく願いいたします。



# 卒業制作展オープニングセレモニー



テープカット



メインビジュアルグランプリ  
受賞者 藤本 巧さん  
(デザイン学科4年)



義江学長

吉野芸術学部長

石川大学院芸術学  
研究科長



オープニングセレモニーに集まった学生・教職員

## 卒展委員長のことば「東京工芸 大学芸術学部卒

業・大学院修了制作展2020」は2020年2月21日から23日まで3日間に渡り中野キャンパスで行われました。大学創立96年目の今年は昨年度より多くのご来場者が見守る中で、7学科(写真、映像、デザイン、インタラクティブメディア、アニメーション、ゲーム、マンガ)と大学院芸術学研究科が揃って、展示・上映を無事に終えることができました。新しい施設の新設工事の慌ただしさや、新型コロナウイルスの問題で開催の心配もありましたが、学生の皆さんを始め教職員のご協力、そして同窓会の皆様のおかげ様で無事かつ盛況に終えることができましたことをご報告するとともにご協力いただきました皆様にはお礼申し上げます。



3日間、落ち着いた雰囲気の中で展覧会は進められました。各会場は来場者と卒業生との話し声で賑やかでした。初日のオープニングセレモニーでは義江龍一郎学長や吉野弘章芸術学部長、石川健次大学院芸術学研究科長からご挨拶をいただきました。その後、各学科の代表学生と共にテープカットを行い卒業研究に励んできた学生を労うとともに、展示上映のスタートを

華やかに祝うことができました。

2日目、3日目の特別企画では本学のデザイン学科卒業生、デザイン学科の教員、イラストレーターの遠藤拓人氏をお招きして「工芸大までと、工芸大でのこと～プロフェッショナルを求めて～」という題材でお話しを伺いました。もう一つの企画としては映画『カメラを止めるな!』の監督上田慎一郎氏をお招きして一から映画を作っていくクリエイターの精魂についてお話を伺いました。会場は両日ともに大勢の来場者で賑わい、来場者の皆様には喜んでいただけたようで大変嬉しく思いました。

今年度も引き続き、4年間の学生生活の集大成である卒業研究の成果が各会場ですらにパワーアップした形でご覧いただけたと思います。またその際には、新しく完成した6号館でも展示を予定しておりますので、ぜひ新校舎にも足を運んでいただきたく存じます。

「東京工芸大学芸術学部卒業・大学院修了制作展2021」は卒業研究作品を通して「感動」や「驚き」を提供できるような会場作りを精進して参ります。同窓会の皆様にはご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

卒業制作展委員会委員長  
教授 李 容旭(映像学科)



## 卒業のことば

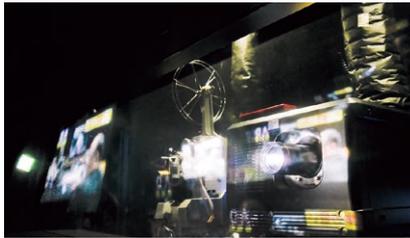
大学に入学してから5年も経ってしまいました。時間が経つのは本当に早いです。昨日のことのように進路に悩んでいた高校生活の日々を思い出します。人より1年間多い理由ですが、僕は「留学」をしていました。人間1人につき80枚くらい配られた命のチケットを1年間だけ留学に使ったのです。その大切な1枚を使って留学をした理由は、今後の社会で必須になるであろう英語能力の取得。それと高校まで続けていたサッカーともう一度向き合いたいと思い、セミプロのチームのトライアウトを受け1年間シーズンを通して活動しました。英語が分からなくてバスに乗れなかった初日の葛藤も、言葉が通じなくて馬鹿にされパスが来なかった経験も今となっては自分を成長させてくれたように思っています。

写真学科 木下 渉

そんな感じで使った大切な1枚のチケットですが、僕は4枚も大学に使ってしまいました。でもこの4枚は胸を張って使ってよかったなと思っています。沢山の人の出会い、価値観を吸収し、狭かった自分の世界を広げてくれました。そしてその4枚のチケットは「写真」という人と繋がれる武器になり、これからの自分の人生を助けてくれ、豊かにしてくれるであろうと確信しています。あと50枚のチケットが次はどんな宝物や自分の武器に化けるか楽しみで仕方がないです。毎日を正直に生きていきます。



# 卒業制作展 映像学科



## 卒業のことば

私は、映像学科2019年度の卒業生です。私の大学生活4年を振り返ってみると、実は将来の歩み方を考える大切な時間だったように思います。入学した当初は、授業や課題が精一杯で自分の将来について全く考えられていませんでした。幸運なことに私は、授業とは関係ないところで教授陣や先輩方、友人といった交流のある人達と映像作品を制作する機会が沢山ありました。そして、3年生の就職活動を始めた時期に「映像づくりを本当に仕事にしたいのか?」と考えるようになりました。熟考した結果、私が就職を決めたのは大学で学んできた業界とは別の業界です。しかし、業界の違いはありますが企業が最終的に目指す地点が同じだったからです。コマーシャルや映画をつくる映像業界は、見てもらう人々に夢や感動を提供していて、「形にできないもの」を与えていると

### 映像学科 中村紘幸

思っています。私は、自身が働く側になったら前述したことに加えて、やり甲斐を感じられる業界が良いと感じたので後者を選択しました。

大学の特性上、ある程度将来の方向性が既に決まっている人も少なくないと思いますが、せつかく4年という貴重な時間があるので自分が経験してこなかったことに挑戦して本当にやりたいことを見つけてほしいです。

4年間で得ることができた、様々な縁を無駄にしない社会人になりたいと思います。最後に、東京工芸大学の御発展と他卒業生の御健勝と御活躍をお祈りし、卒業生を代表して、「卒業のことば」とさせていただきます。



卒業制作展

# デザイン学科

グラフィックデザイン領域



## 卒業のことば

デザイン学科 グラフィックデザイン領域 中田優樹

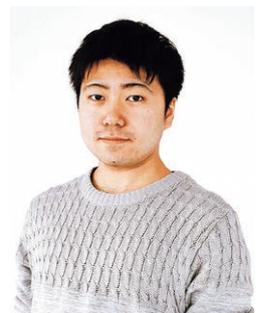
幼いころから絵を描くことや、もの作りが好きでした。中学生の終わりに初めてデザインという言葉を意識するようになり、後に工芸大学へ入学します。入学した当初から様々な事を学ぶことが楽しく、苦勞することも山ほどありましたが、学んだことを少しずつ覚え身につけていくことが実感できました。そして成績が発表され毎年予想を超える結果につながり、家族で喜んだことを覚えています。

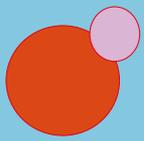
しかしこの結果も楽しく学ぶことができたことも、全て周りで支えてくれた方々のおかげだと思っています。競い協力し合った友人、学校の設備を使わせてくださった方々、真剣に指導してくださった先生方、そして家族の

おかげです。

大学生活では勉学の他にも、何気ない会話の時間や美味しいものを食べる時間など、当たり前に行っていることのすばらしさにも気づかされました。様々な人と会い、ともに過ごした時間はかけがえのない4年間です。

これからまた次の生活へと変わり、今まで以上の困難があると思いますが、この4年間で学んだこと、そして今まで体験したことの全てを自分の力にして、精一杯楽しんで頑張りたいと思います。





卒業制作展

# デザイン学科

## イラストレーション領域



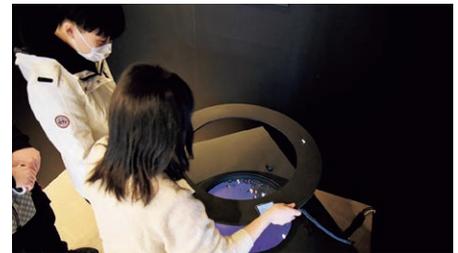
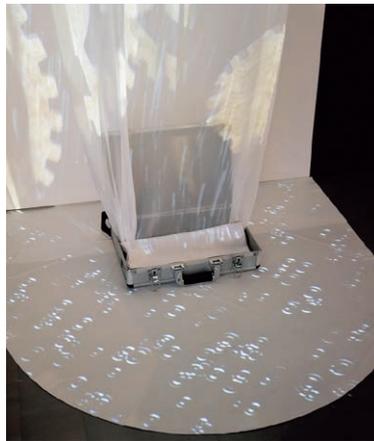
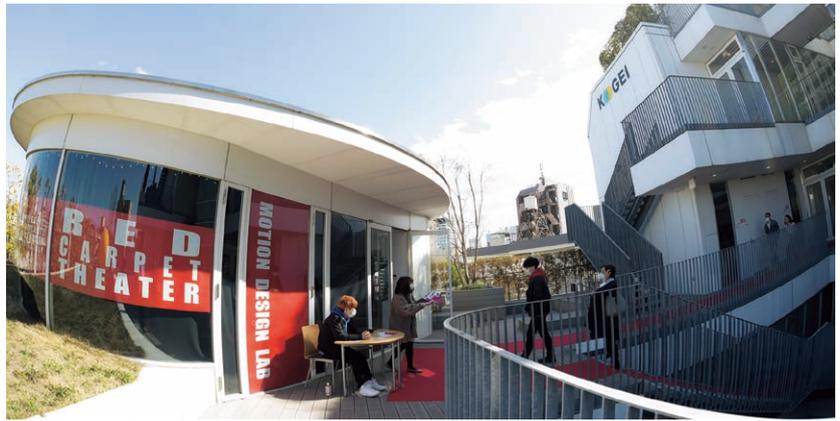
### 卒業のことば

デザイン学科 イラストレーション領域 藤本 巧

先日、卒業制作展が終了いたしました。自分の描いてきた絵を改めてじっくりと見返すと、ひたすら絵を描き続けた大学生活だったとしみじみ思いました。昔から絵を描くのは好きでしたが、入学後はイラストレーターになるという明確な目標をもって描くようになりました。3年生で研究室に所属してからは、より社会や仕事を意識した課題に取り組みました。現役のイラストレーターとして活躍されている先生方に絵を見てアドバイスしていただいた日々は、イラストレーターを目指す私にとってこの上なく実りのあるものでした。そんな大学生活の集大成である卒業制作展では、絵に携わるプロとは違った視点の感想もいただき、新鮮で気付きも多く、貴重な財産と

なりました。私の絵が今年のメインビジュアルに選ばれたことで、大学周辺や中野坂上駅など至るところで自分の絵を見ることができたのは大きな喜びでした。また、私の展示が芸術学部大賞に選ばれたことも非常に励みになりました。イラストレーターとして活躍するという目標に大きく前進できたと思います。多くのものを得ることができた卒業制作展でしたが、ここをゴールとせずこの経験を糧に、より精進してまいります。





### 卒業のことば

#### デザイン学科 映像情報デザイン領域 大石智稀

小さい頃から何かを作ることが好きでした。当時通っていた造形教室では絵を描いたり工作をしたり、そして作品をみんなに褒めてもらったりすることがとても嬉しかったです。中学高校時代は一時期モノづくりから離れて過ごしていましたが、大学進学を考えた際に、クリエイティブな仕事に就きたい、そのために必要なことを学びたいと思いました。それから東京工芸大学を見学し、その夢が実現できると確信し、入学を決めました。

漠然と広告業界で働きたいと考えていた私は大学入学当初から授業だけでなく様々な課外活動にも参加しました。学生生活では友人や所属する研究室のメンバー、教授のほか、他の研究室の人や後輩からも多くの刺激を受けました。いろいろな気付きを与えられ、様々なものを吸収できたことに非常に感謝しています。

3年次からは映像デザイン研究室に所属し、企画、撮影、編集など映像に関わる様々なことを学ぶことができました。

独学でもいろいろと勉強してはいたもののまわりは自分よりレベルの高い人だけで、広告業界で働きたいけれど課題の出来や講評などを通してデザインや編集の世界に進むのは私には難しいだろうと痛感しました。それでも映像と関わる仕事に就きたいと強く思っていました。

卒業後はCM制作会社に就職します。仕事はデザインや編集ではなく企画や撮影準備、進行、予算管理などですが、この大学で学んだことは決して無駄ではなく、様々なことをここで経験できたからこそ自分がやりたい仕事を見つけ、それを仕事にできました。学生時代に学んだ何かを作り上げる楽しさ、そして多くの人に届ける喜びを最大限発揮できる職場だと思っています。これからは最強のCMプロデューサーを目指して頑張っていきます。





## 卒業のことは

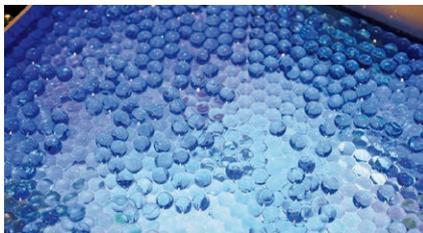
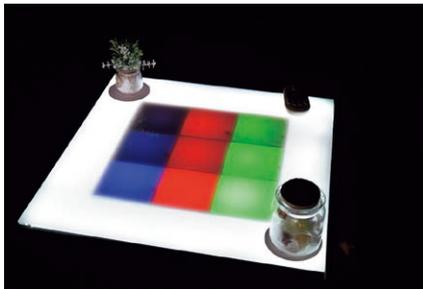
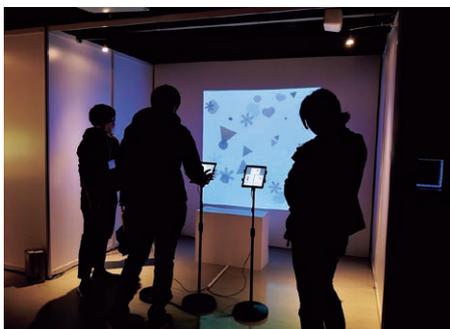
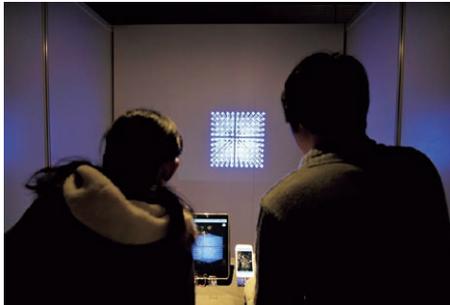
デザイン学科 空間プロダクトデザイン領域 福田莉瑛

東京工芸大学で学んだ4年間は、長くもあり短くもあり、卒業するという実感は正直まだありません。大学に入學した当初、周りにはいる人たちが自分よりも優れているように見えて、劣等感を抱いてしまったときもありました。それから自分の強みをつくろうと思い、学芸員課程を受講したり、アイデアの引出しを増やすために様々な場所へ赴いたり、いろんなものを見て吸収するようにしていました。その結果、知識の幅が広がり以前の私よりも成長できたと思います。

卒業後は空間デザイナーとして働きます。幼い頃からモノづくりが好きで、気づいた時にはデザイナーになる

ことを目指していた私にとって「自分が携わったものが世の中に出て、それらを多くの人が利用してくれる」というのはずっと夢見ていたことでした。これからそのような経験ができると思うと、とてもワクワクしています。学生時代とは違った大きな壁にぶつかってしまうこともあると思いますが、その当時の楽しかったこと、辛かったこと、すべての思い出を胸に、先へ進んでいきたいです。





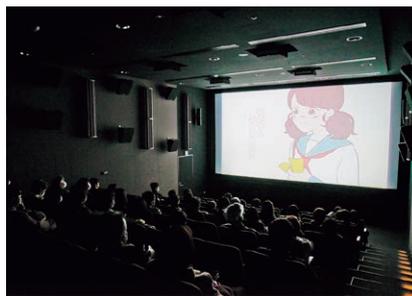
## 卒業のことば

### インタラクティブメディア学科 薄葉 証人

私がインタラクティブメディア学科(以下IM学科)という特殊な学科を選んだ理由は高校から始めた音楽でした。誰からも教わず独学で学びどんどん熱中していきました。入学後は音楽中心の生活で授業が終われば帰って作曲の毎日でした。しかし2年の後期にIM学科での学びによってあることに気づきました。それは音楽を作ることというよりパソコンで何かを作ることが好きだったということです。IM学科ではプログラミング、電子工作、CG、映像など様々な分野に触れることが出来ます。色々な影響を受けますが私はそれが合っていたらしく、複数の分野を掛け合わせて表現をすることができるインタラクティブアートの道に進みました。入学当初に思っていた道とは少しズレましたが、音楽に熱中していた時期の

経験はインタラクティブアートを作る上でとても役に立っています。卒業後は今学んでいることをそのまま活かせるような仕事に就くことができました。しかしIM学科は様々な分野を学べる反面、専門的な深いところまではなかなか届きません。私自身能力としては足りない部分がたくさんあるので就職してからは一つの分野を極められるような努力をしていけたらと思っています。こんなに変化のある4年間を過ごせたのは先生方や仲間のおかげです。学んだこと、楽しかったことを忘れず進んでいこうと思います。





## 卒業のことば

私は高校2年生までは、あまり創作をした経験がありませんでした。ところが何気なく絵を描き始めたところすっかり夢中になり、いつしか絵を描く仕事に就きたいと思うようになりました。

具体的にどの職業を目指すか悩んでいた頃、あるアニメ作品の作画に感銘を受け、自分もやってみたいと思ったのがアニメ業界を志したきっかけです。

何の知識もないままに動画を描き、初めて自分の描いた絵が動いたときは本当に感動しました。そこで私は、基礎からしっかり学べばもっと面白いことができるだろうと考え、東京工芸大学へ進学しました。

大学の課題は想像以上に大変で、芸術に対する自分の

### アニメーション学科 山崎瑛二

考えが甘かったことをすぐに痛感しました。

しかし大変な思いをした以上に、大学で得られたものは大きいと思います。

授業で得られる知識、技術は独学で学べるものではありませんし、何より同じような志を持った学生が身近に沢山いる環境は、日々刺激を与えられ、私を成長させてくれた貴重なものでした。春からようやく夢の第一歩を踏み出します。この先たくさんの方の困難が待ち受けていると思いますが、大学生活で得た経験を糧に歩み続けていきます。





## 卒業のことば

高校3年生の時、私は進路に悩んでいました。特に志望する大学はなく、ただただ受験勉強に明け暮れる日々を過ごしていました。そんなある日、模試の志望校記入の冊子を眺めていたところ、ある大学に興味を持ちました。そこは、大学でありながらもゲームについて学べる大学でした。そこで私は、自分の好きな趣味を仕事として学べると思い東京工芸大学に進学しました。

そんなことを思って入学してから卒業を控えた今、思い返すと濃い4年間でした。大学では学ぶことが多く、時間が足りないと思ったことは何度もありました。新しく学んだことを実際に組み込むことで、制作したゲームの面白さや見た目に変化していくことにゲーム制作の楽しさ

### ゲーム学科 涌井 謙

を実感しました。また、チーム制作では意見の食い違いや自分の能力不足で何度も壁にぶつかりました。しかし、チームの仲間や友人、先生方に助けてもらいながらも完成したときの達成感は今でも忘れられません。

私がここで学び、経験したことは、血肉として一生生き続けるでしょう。最後になりましたが、お世話になった先生方や先輩方、そして共に切磋琢磨した友人たち、今までありがとうございました。





## 卒業のことば

大学4年間を通して、継続と挑戦がとても重要だと感じました。

1年生で自身の技術や知識のなさを思い知り、夢を甘く見ていたと絶望したことを覚えています。しかし、絵を描くことを嫌いにはなれず、描き続けていると上手くなっていくのが実感できたんです。とにかく継続すれば必ず上達するという自信が私を4年間引っ張ってくれたかなと思います。

また、大学生のうちとにかくいろんなことに挑戦してみました。マンガやアニメにしか興味がなくインドアだった私が、バイトやサークル活動で頻りに外を歩いたり、全く触れてこなかったジャンルに急に飛び込んで

### マンガ学科 戸倉瑞紀

みたり…。思い切っているんな方向に手を伸ばすと本当に自身の視野の狭さが分かりますし、新しい発見ができました。そうしてやっと思ったようにマンガが描けたのは最後の卒業制作です。ずっと描きたいと思っていた内容であり、周りからの反応も良かった作品なので本当に満足しています。

私は就職の道を選びましたが、これからもマンガは描き続けます。4年間大学で学んだことは全て私の糧になり、何かしらの形で将来に繋がっているはず。その時、誰かの心の支えになれば嬉しいです。



# 田沼武能会長「文化勲章受章を祝う会」開催

本学・同窓会会長・田沼武能氏の「文化勲章受章を祝う会」が2月10日、東京・日比谷の帝国ホテルにて、写真界を始め各界から約700名の参加者のもと、盛大に開催されました。

田沼氏は1929年東京・浅草に生まれ。東京写真工業専門学校を卒業し、1949年にサン・ニュース・フォトスに入社して木村伊兵衛氏に師事。藝術新潮委託などを経て1959年にフリーランスに。1965年、アメリカのタイム・ライフ社と契約。ライフワークとして世界のこどもたち、人間のドラマ、武蔵野や文士・芸術家の肖像を撮り続けるなど作品を発表。1995年から2015年まで日本写真家協会の会長を務める……という経歴を持ち「写真家の地位向上」をテーマに日本の写真界に多大な功績を残したことで2019年、写真家として初めて文化勲章を受章しました。

会は、雅楽演奏家の東儀秀樹氏と東儀氏のお姉様、お母様と3人による雅楽の演奏で厳か、かつ華麗に幕を開けました。挨拶として、まず日本写真保存センターの設立推進連盟代表で衆議院議員の細田博之氏、続いて女優でユニセフ親善大使である黒柳徹子氏がそれぞれ田沼氏の功績を称えました。

これらの挨拶を受け、田沼氏は受章の喜びを冗談を交えながら次のように述べました。

## 田沼氏

本日は私の受章のお祝いに大勢参加下さりましてありがとうございます。感激しています。

(中略)

私が文化勲章を受章したのは、写真家協会の5代目の会長を務め、そのなかで協会を社団法人に、著作権保護期間を作



田沼会長夫妻

者の「死後50年」にするなど、種々の事業に成果をあげてきました。それは私1人ではなく、皆さんの協力でできたことだと思っています。写真家協会はもとより、写真業界の人たちが一緒になってやって下さったお陰で様々な権利も獲得することができました。決して私1人ではなく、皆さんと一緒に文化勲章をいただいたと思っています。

これからも写真界のために尽くしたいと思えますし、自分の写真をこれからも撮っていきたくと思っています。写真は素晴らしい仕事だと思っていますので、皆さんのますますのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



このあと、写真家の織作峰子さんから花束の贈呈、そして凸版印刷相談役の足立直樹氏の発声で乾杯し、受章パーティーへと移りました。宴では田沼氏へのお祝いの言葉と記念写真撮影のために長蛇の列ができるなど、お祝いムード全開の光景が繰り広げられ、朝日新聞社社長の渡辺雅隆氏の中締めの挨拶で、惜しまれながらも閉会しました。



雅楽演奏家  
東儀秀樹氏



衆議院議員  
細田博之氏



女優  
黒柳徹子氏



約700名がお祝いに駆け付けた



# 2020フォックス・タルボット賞

フォックス・タルボット賞は、写真表現に情熱を傾ける若い写真家の登竜門としての役割の他、国際的視野をもった写真家を育成することを目的に、1979年東京工芸大学短期大学部に設けられ、今回で第41回を迎えることになりました。本賞は、ネガポジプロセスの発明者ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット氏(英・William Henry Fox Talbot 1800-1877)の偉業をたた



第一席受賞の小松桃子さん

え、イギリスのフォックス・タルボット美術館のご協力をいただき、氏の名前を冠した賞と

なっています。本年度の応募者は44名、応募作品数は51点でした。

第一席には、写真学科4年生、小松桃子さんが選ばれました。SNSが日常的になっている現代の”死生観”をテーマとしたもので、恐怖や矛盾といった人の感覚がイメージ化された個性的な作品です。なお、今回の第41回から賞状、賞金とともに授与される盾がクリスタル製のデザインとなりより華やかさが増しました。年齢制限はありませんが、応募可能な方はぜひ次回「2021フォックス・タルボット賞」への応募をお待ちしております。

フォックス・タルボット賞運営委員長  
教授 田中 仁



新しいデザインになった盾

2020フォックス・タルボット賞は2020年1月22日に審査が行われ、下記の方々が受賞しました。

## 2020フォックス・タルボット賞 入賞作品発表

第一席	悪夢と生き、死に触れる	小松桃子	芸術学部写真学科4年
第二席	ライブハウスを離れるときに	高松あゆみ	芸術学部写真学科4年
第三席	いきもの日和	中川晴美	芸術学部写真学科4年
佳作	目を閉じ、日光に向かう	テイ シオウ	大学院芸術学研究科1年
佳作	FUCK You VERY MUCH	村田一樹	芸術学部写真学科4年
佳作	うつろう	猪又治斗	芸術学部写真学科4年
佳作	Landscape	横山 渚	芸術学部写真学科4年
佳作	ROUTE 1	原 向日葵	芸術学部写真学科4年
モノクロ賞	雲を霞と	大島宗久	芸術学部写真学科2012年卒

審査委員の先生方 田沼武能(委員長) 細江英公 中谷吉隆 立木義浩 小林紀晴 (敬称略)

## 2019年度 学位授与式

2020年3月24日、中野キャンパスにて2019年度芸術学部の卒業生に学位記が配布されました。本来であれば中野サンプラザの会場で学位授与式が執り行われ、後援会・同窓会主催の「卒業祝賀会」が盛大に行われる予定だったのですが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、学科

ごとにキャンパス内の各教室で学科主任から卒業生一人ひとりに学位記が手渡されました。卒業生にとっては少し寂しい旅立ちの日となりましたが、友人や先生と記念写真を撮ったり、短い時間ながら温かく楽しい思い出に残るひとときとなりました。卒業生のみなさん、おめでとうございます！







# 令和元年度後期理事会 令和2年度前期理事会

令和元年度後期理事会が12月23日、東京・中野の中野サンプラザで開催されました。冒頭、田沼会長は、文化勲章受章の報告を兼ねて挨拶「この勲章は、私1人ではなく、皆さんと一緒にいただいたものだと思います。ありがとうございます」と述べられたあと、池田専務理事によってお祝いの花束贈呈が行われました。

その後、議事に入り、事業・総務・広報・名簿の各委員会報告、令和元年度決算報告、令和2年度活動計画案・予算案が審議され、全て原案通り承認可決されました。



お祝いの花束を受ける田沼会長  
写真右は文化勲章

## 令和2年度 前期理事会書面表決結果報告

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、「令和2年度同窓会前期理事会」を書面表決とさせて頂きました。6月1日付で「同窓会令和2年度 前期理事会議案書」を送付し、書面表決にてご審議頂き、全ての議案に関してご承認頂きました。



## 田沼武能先生の写真が 5号館(芸術情報館)の壁面に

2023年に創立100周年を迎える大学の紹介として、令和元年度文化勲章を受章された同窓会会長で名誉教授でもある田沼武能先生の作品「日本の子ども 世界の子ども」の写真が大型のポスターになって、中野キャンパス5号館(芸術情報館)の道路に面した壁面に掲出されました。田沼先生の写真家としての歩みと、本学の歩みを重ね合わせながら、未来を担う子どもたちのたくましく生きる姿を捉えた写真です。道ゆく人が足を止めて写真を見ている光景をよく目にします。



## 展示会・出版の記録



展：写大ギャラリー・コレクション展  
「写真とマニピュレーション」  
所：東京工芸大学 写大ギャラリー  
期：2019.11.18-2020.1.13



展：小林紀晴写真展  
「孵化する夜の啼き声」  
作：小林紀晴(写真技術科63期)  
所：銀座ニコンサロン  
大阪ニコンサロン  
期：2019.12.11-12.24  
2020.1.9-1.22



展：写真と本/本と写真  
作：勝倉峻太(写真学科75期)/猪又治斗/HAO RENLONG/  
笠谷有香/小松桃子/小山美咲/鈴木望希/高松あゆみ/  
中川晴美/野澤莉奈/原 向日葵/平野佑津希/村田一樹/  
HU ERZHEN(写真学科4年生)/下込 萌(写真学科90期)/  
影山あやの(写真学科89期)  
所：AXIS Gallery  
期：2020.2.28-3.4



展：田沼武能写真展「わが心の東京」  
作：田沼武能(写真技術科24期)  
所：富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2、  
ミニギャラリー  
期：2020.6.9-7.9

# ひろばのページ

## 34期写真工業科・同期の集い

当会では、毎年12月の第2土曜日を同期会の日と定め、絶えることなく開催してきましたが、令和元年12月14日に開催実施した結果、なんと39年目を迎えました。今回も、相沢忠勝・末次祥宏の両氏が幹事役を担当し、新宿のライオン会館「安具楽」での開催となりました。ただ同期の仲間は、全員が傘寿越えの年代ということもあり、今回の参加者は8名と、些か寂しい状況でしたが、それでも久し振りの再会を喜び、そして昔話に花が咲き、大変楽しい時間を持つことが出来ました。

今回は、本年12月12日(土)に、今回と同じ会場での開催を予定しておりますので、元気でお会いしましょう。

川名晴美(34期)



## 35期写真工業科製版技術専攻同期会

【令和】最初の同期会は、令和元年12月4日に定例会場の銀座8丁目「久保田」に14年ぶりに八方一治先生をお迎えし、再会と健康を祝して乾杯～歓談。先生から大学創立95年目の現況をお伺いしました。「3,000名近い在校生数、令和2年春6号館校舎の完成、芸術学部7学科が中野キャンパスに一元化され受験生の増加などなど…」拡充し飛躍する新しい大学の姿に隔世の感でした。次回は令和2年12月2日(水)12時から開催予定です。

宮内辰蔵(35期)



※学年・職位等は開催当時のものです

展：展示会名 作：作者 所：場所 期：会期



展：写真学科スペシャル  
2020 選抜作品展示  
所：中野キャンパス  
期：2020.2.7-2.8



展：吉田明広写真展「Resilience」  
作：吉田明広(写真学科80期)  
所：渋谷ヒカリエ8/  
CUBE 1.2.3  
期：2020.2.17-2.26



展：五百羅漢を巡るふたつの視覚  
-林忠彦×大和田良-  
作：大和田良(写真学科77期)  
所：天恩山五百羅漢寺  
期：2020.2.5-4.29



展：東京工芸大学芸術学部卒業・  
大学院修了制作展2020  
所：中野キャンパス  
期：2020.2.21-2.23



展：「写真学校8校による卒業制作展2020 vol.2」  
所：ニコンプラザ新宿 THE GALLERY1+2  
期：2020.2.25-3.2



展：ブツドリ  
作：広川泰士(大学院非常勤講師)、  
写真学科卒業生  
所：TOKYOARTS GALLERY  
期：2020.3.6-3.15



松尾忠男「NEW YORK」  
松尾忠男  
(写真技術科51期)  
リヒト舎



マネージャーは私依存症。  
やのもと恵美  
(マンガ学科13期)  
小学館



デジタル時代のファジー写真画  
佐伯領二  
(工業技術科34期)  
アートライン  
2019.8.16

## 訃報

衷心よりお悔み申し上げます。

山本 吉男 (24期・写真技術科)	大谷 泰章 (34期・写真工業科)
若松 淳 (29期・写真技術科)	杉木 彬 (40期・写真工業科)
後藤 乃夫也 (30期・写真工業科)	堀部 黎子 (42期・写真技術科) (旧姓 松下)
正木 史郎 (31期・写真技術科)	佐々木 維彦 (42期・写真印刷科)
吉田 脩 (32期・写真工業科)	金子 俊男 (47期・写真技術科)
平田 明文 (33期・写真工業科)	勝又 時彦 (59期・写真技術科)
今井 清 (34期・写真工業科)	

(敬称略) 訃報は御親族の承諾を頂いた方のみ掲載させて頂いております。

## 2020年度ホームカミングデーについて

例年秋に開催されていて、「ひろば」に開催案内を同封している「ホームカミングデー」(2019年度は台風のため中止)ですが、今年度の開催については7月1日現在、方針が定まっておりません。社会状況にもよりますので、開催される場合には別途案内ハガキおよび同窓会ホームページなどでお知らせいたします。

## 編集後記

お待たせいたしました。2ヶ月遅れになりましたが、「ひろば140号」をお届けできる運びとなりました。世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス。同窓会・大学にとっても、この影響は大きなものとなり、本来であれば本号で記事になるはずだった「卒展×同窓のつどい」、「中野サンプラザでの学位授与式・卒業祝賀会」、「入学式」などの行事は軒並み中止となりました。大学の授業は「オンライン授業」が中心になっています。今後もまだまだ予断を許さない状況が続くかも知れませんが、皆様におかれましては、どうぞお体に気をつけてお過ごしください。

広報委員長 上田 耕一郎(75期)